

卷頭言

未来を担う子どもたちに大切な
資質・能力と数学教育

数学部会長 上市 善章

平成30年6月に開催された千葉県高等学校教育研究会数学部会総会におきまして、岩崎章先生の後任として部会長を務めることになりました千葉県立佐倉高等学校校長の上市善章です。千葉県高等学校数学教育の発展に向け、少しでも貢献できるように、微力ではありますが、精一杯頑張りますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて、夏に行われた教育課程研究協議会でも触れさせていただきましたが、最近の教育改革に関連して、生徒に育みたい資質・能力について振り返りますと、文部科学省は、1996年に「生きる力」を示し、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を学校、家庭、社会全体で育むものとし、2007年には学校教育法のなかで、確かな学力の三要素として①基礎的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度を明示しました。最近では諸外国の新しい能力観を意識した論点整理がなされています。

世界各国でも、グローバル化の進展や情報の爆発的な増加を背景に、学校で学ぶべき「新しい能力」について近年、盛んに議論されてきました。皆さんの記憶にも新しいOECDが示した「キー・コンピテンシー」、アメリカの民間団体P21が発表した「21世紀型スキル」、それを発展させて多くの国が参加した「ATC21S」などがあります。これらを受けて先進各国では教育カリキュラムが改定される例もありました。こうして多くの能力観が示されましたが、その多くが、基礎的なリテラシーに加えて、認知スキルや社会スキルが必要であるとするものでした。世界各国の教育に提言をしているOECDにおいて、現在は新しい能力を定義するプロジェクト「Education2030」を進めており、日本の文部科学省とも政策対話を重ねてきています。こうした流れの中で高等学校の次期学習指導要領が、平成30年3月30日に告示され、7月に解説が公表されました。その「数学編 理数編」の解説を読むと、育成する資質・能力について、例えば数学科改訂の趣旨のなかで、「数学的に考える資質・能力を育成する観点から、現実の世界と数学の世界における問題発見・解決の過程を学習過程に反映させることを意図して数学的活動の一層の充実を図った。」とあるように、数学の有用性を生きて働く知識と捉えられるような工夫をすることや、高等学校における数学教育の意義を、3つの観点「実用的な意義」「陶冶的な意義」「文化的な意義」から具体的な例を示しながら説明するなど、数学の良さを理解して生徒が主体的に学ぶことができるようにするための説明がかなり丁寧に記述されています。こうした次期学習指導要領の主旨を踏まえ生徒の資質・能力を育むためには、教員の理解と指導力向上がとても重要となります。そのためにも一層の数学教育の発展に向け、今後も本部会の活動や研究を進めていきたいと思っております。数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」は昭和39年の創刊以来、数学教育全般にわたる啓発活動、先進的な研究や授業改善に向けた取組等を広く紹介し続け、今回第56号を発刊することができました。ご協力を頂いたたくさんの先生方にこの誌面をお借りして御礼申し上げます。また、本部会で一緒に研究したい先生方がいらっしゃいましたら事務局へご連絡いただきたいと思います。

最後になりますが、高等学校数学教育の一層の発展と本県数学指導を担う先生方のご活躍を心より祈念いたします。